

教育目標：「自ら考える生徒 進んで行動する生徒 最後までやりぬく生徒」



白中だより

<https://usuchu.city-niigata.ed.jp/>

ブログ更新しています



令和8年1月26日 発行

新潟市立臼井中学校

電話 025 (373) 5402

FAX 025 (373) 5469

E-mail j603usuchu@city-niigata.ed.jp

○3学期始業式 学年代表の新年の抱負

[1年生] 佐藤 和果

2学期を振り返り、私は頑張ったことが二つあります。一つ目は勉強です。それは、日頃から、ワークや課題を計画的に取り組むことができたからです。ですが、復習の時間をしっかり取ることがあまりできていなかったのこれから復習の時間をしっかりとったり間違えた問題などはそのままにせず理解をするということなどを行なっていきたいです。二つ目は、部活動に力を入れて、取り組んだことです。バレーボールの練習では、基礎練習やポジション練習、チーム練習など一回一回を大切にしていることができました。ですが、チームとしての声をあまり出せていなかったことでのミスが多かったことが反省点です。そのため3学期は反省点を踏まえて計画的に復習を行いながら勉強をしたり、部活では一回一回の練習を大切にしながら頑張っていきたいです。最後に部活動と勉強などの両立のために、ある時間を有効に大切に使いながら、積極的に行動していきたいです。

[2年生] 長沢 隼也

僕が3学期で頑張りたいことは2つあります。

1つ目は提出物を早めに出すことです。2学期は遅れて出すことがあったので、しっかりと期限を意識し早く出すようにしたいです。

2つ目は、朝は時間に余裕を持って遅刻しないようにすることです。2学期には時間ギリギリに起きて遅刻してしまうことがありました。この反省を踏まえ、3学期はゆとりを持ち、学校に送れないようにしていきたいです。

この2つを自覚し、3学期という学年の最終学期を収穫大きものにしたいです。



[3年生] 坂井 輝空

私の新年の抱負は二つあります。

一つ目は受験勉強です。私は一、二年生の時に全然勉強をやらず、三年生になったら全く勉強が分からなくなってしまい、今でも後悔をしています。今年は受験生なので、今までサボってきた分、残り少ない時間ですが勉強を頑張っていきたいです。そして、高校に進学したら、日々の勉強もしっかりやっていきたいです。

二つ目はバレーボールです。自分はすでにバレーボール部を引退していますが、私はバレーボールが好きなので、やりたくなり、たまに高校生の練習に混じってやっています。高校生の練習なのできつい時もありますが、その分うまくなれたり、体幹がきたえられたりしています。また、私は高校に進学してもバレーボールを続け、活躍できる選手になりたいと思っています。

以上のことから、これからも勉強とバレーボールを両立しながら頑張っていきたいです。

丙午

○校長講話 「挑戦に遅すぎることはない」

あけましておめでとうございます。2026年、いよいよ新しい1年が始まりました。

今年の干支は「丙午（ひのえうま）」です。この年は、努力が実を結び、新しく物事が発展する「成長と発展の年」だと言われています。そして、あと一ヶ月もすれば、イタリアでミラノ・コルティナ冬季オリンピックが開幕します。

今日は、この大会を目指して壮絶な挑戦を続けた、一人のスキーマーのお話をします。皆さんは、佐々木明（ささき あきら）という選手を知っていますか？

彼は2000年代、世界で最も層が厚いと言われるアルペンスキー界で、日本人として不可能と言われた世界の頂点に最も近づいたレジェンドです。ワールドカップで2位表彰台を3回獲得、オリンピックに4大会連続で出場し、一度は32歳で現役を引退しました。

しかし、彼の本当の伝説はここから始まります。2022年、40歳になった彼は突然こう宣言しました。「2026年のミラノオリンピックで金メダルを獲る」

8年のブランクを経ての復帰です。スキーは実績がないと、コースがボロボロに荒れてしまった後の方からしか滑らせてもらえない不公平な競技です。しかし、彼はほぼ最後尾からスタートした復帰戦で、いきなり優勝して世界を驚かせました。

ところが、挑戦の道は平坦ではありませんでした。2024年、トレーニング中の自転車の事故で頭部を強打し、「脳脊髄液減少症」という命に関わる大怪我を負います。それでも激しい頭痛に耐えながらリハビリを続け、昨年も若手に混じって世界中を転戦しました。44歳にして全日本選手権で2位に入るなど、親子ほど年の離れた選手と互角以上に戦えることを証明してみせたのです。

しかし先月12月、再びレース中の事故が彼を襲いました。医師から「これ以上は命に危険が及ぶ」と告げられ、彼は年末、ついに挑戦を断念することを発表しました。今はまだ怪我の影響で飛行機にも乗れず、遠くイタリアの地で治療とリハビリを続けています。

佐々木選手の挑戦は、「オリンピック出場」という結果には届きませんでした。でも、彼は私たちに大切なことを教えてくれました。それは、「挑戦に遅すぎることはない」ということ。そして、「本気の挑戦は、結果を超えて人々の心を動かす」ということです。

彼は引退の際、悔しさよりも先に、支えてくれた人々への「ありがとう」を口にしました。彼にとってこの挑戦はクラウドファンディングで繋がったたくさんの支援者との「チームとしての挑戦」でした。そしてファンにとっても大きな希望となったことは言うまでもありません。

皆さんに以前お話しした、ウェルビーイングの4つの言葉を覚えていますか？「やってみよう」「ありのままに」「なんとかなるさ」「ありがとう」

佐々木選手はこの4つを、その生き様で体現してくれました。この「丙午」（ひのえうま）の年、皆さんも何か一つ、自分の心が動くことに「やってみよう」と踏み出してみてください。この1年が、皆さんにとって大きな「成長と発展」の年になることを願って、私からの新年のお話にします。